

巻頭インタビュー

宮城県で唯一の パキスタン女子留学生



フリハ カリド さん
パキスタン・イスラム共和国
東北大学農学部留学生

——最初に、お名前のことをお伺いしたいのですが、「フリハ」として呼ばれた方がいいのでしょうか？それとも「カリド」さん？

「カリド」は父の名前ですから、「フリハ」と呼んでください。

——では、「フリハ」さん。どちらのご出身ですか。

出身地はパキスタン中部、パンジャブ州にあるファイサラバード(資料によればパキスタン第3の都市で人口は260万人)という街です。ですが、生まれたのはサウジアラビアです。父は仕事の関係でサウジアラビアとパキスタンを行ったり来たりしていました。ですので、私は中学卒業までサウジアラビアのインターナショナルスクールに通っていました。そして、高校に入るときに家族みんなでファイサラバードに戻りました。

——どうして日本に留学しようと思われたのですか？

子どものころからよその世界に興味がありました。また、サウジのインターナショナルスクールでは英語とアラビア語で学んでいたため、英語には自信がありました。日本はテクノロジーのレベルが高いという印象も持っていたので、日本で学ぶことはできないかと思っていたところに、東北大学の英語だけで学べるプログラムの情報にたどり着きました…

——ご両親は反対しませんでしたか？

父は全く反対しませんでした。大きな災害があったことも知っていましたが、自然災害はどこにでもあることだからとまるで問題にしていませんでした。母は、心配だとは言っていました、特に反対はしませんでした。

——それで、実際に日本に来てみていかがでしたか？

最初のころは日本語ができなくて、とてもたいへんでした。いまは、2年ほど経ちましたので、あまり大きなストレスではなくなりまし



夏休みに行った気仙沼にて

た。初めて雪を見たときは感動しましたが、その感動が冷めてしまうと雪道は自転車でも走ることがままならないので…

——食べものはどうされていますか？

ハラルショップが三条町にいくつかありますので、たいいていの食材は手に入ります。でも、日本に来るまで料理したことがなくて、最初は苦労しました。いまはかなり上手になったと思います。日本の食べものだと、チョコレートとかお菓子類がおいしいですね。それと、団子と餅。あんこのお餅はととても好きです。

——農学部では何を学ばれていますか？

海洋生物について学んでいます。10月から3年生になり、専門的な授業も増えてきました。来年は遺伝学を集中して学ぼうと思っています。

——将来の夢はありますか？

まだ学部で3年生ですから、あまり遠い未来のことは分かりませんが…研究者になりたいと思っています。大学院もこのまま宮城で過ごしたいですね。

——ところで、パキスタンのマララさんがノーベル平和賞を受賞されましたが、それについて同国の女性としてどう思われましたか？

パキスタン女性としてとてもうれしいです。パキスタンはいまだに伝統的な考え方が強く、女子の教育についてもその必要性が十分に認められているとはいえない現状があります。しかし、少しずつ少しずつパキスタンも変わってきていますし、今回のマララさんの受賞によって、その変化のスピードが速くなればよいと思います。

——東北大学で唯一のパキスタン女性のフリハさんもぜひ活躍ください。きょうはありがとうございました。



MIA日本語サポータービギナー研修会

日本語を学習したい外国人にマンツーマンで日本語を教えるボランティア活動について基礎から学ぶ研修会です。日本語サポート活動を初めてみたい方、登録はしてみたけれど実際どうしていいかわからないというビギナーの方々にお勧めです。

- 日時 2015年1月21日(水) 13:00~16:00
- 場所 宮城県国際化協会交流ラウンジ
- 講師 鈴木英子氏(MIA日本語講座スーパーバイザー)

- 内容 地域の国際化と日本語ボランティア活動について、外国語としての日本語、やさしい日本語について、日本語学習教材の紹介など
- 定員 30名(先着順)
- 申込 MIAまで電話またはEmailにて

※参加はMIA日本語サポーター登録者に限ります。未登録の方は事前にMIA日本語サポーターへの登録をお願いします。



※JICA=独立行政法人国際協力機構(開発途上国に対する総合的な二国間援助機関で、技術協力・有償資金協力・無償資金協力を行っています。)

TEL.022-275-5540 E-mail jicadpd-desk-miyagiken@jica.go.jp JICA東北ホームページ <http://www.jica.go.jp/tohoku/>
JICA宮城デスクからのお知らせ

JICA宮城デスクが交代しました!

離任挨拶

元JICA宮城デスク 伊東和希子

JICA宮城デスク(宮城県国際協力推進員)の伊東です。毎号この欄の記事を書いて参りましたが、10月中旬をもちまして任期満了のため離任致しました。これまで、MIAやJICAの様々な事業を通してお世話になりました皆様へ、心から感謝致しております。ありがとうございました。今後は後任の外島が業務を引き継ぎます。これまでと変わることなくお付き合い頂きますよう、よろしくお願ひ致します。

着任挨拶

JICA宮城デスク 外島紀末子

はじめまして。宮城県国際協力推進員に着任しました外島紀末子と申します。福島県会津若松市で生まれ育ち、アメリカや南米・エクアドル、東京で生活した後、二年半前に仙台に参りました。豊かな自然、美しい街並み、美味しい食べ物に溢れる宮城県にすっかり魅了されています。宮城県民の一員として、国際協力を通し、皆さんと世界を繋ぐパイプ役となれるよう、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

インドネシア共和国バンダ・アチェ市研修員8名が東松島市で鮭漁を体験!
~住民主体ビジネスから復興を学ぶ~

前回の倶楽部MIA10月号でお伝えしたバンダ・アチェ市より来日した研修員の研修報告続編です。今回は、9月から東松島市で研修を行っているアチェ市職員2名に加え、10月下旬に来日した現地の村長や漁師を含む6名の研修の様子をお伝えします。

当機構では、草の根技術協力事業(※1)として産学民連携の中間支援組織である一般社団法人「東松島みらいとし機構(HOPE※2)」とともに、津波被害の経験を共有する東松島市とアチェ市で相互復興を目的とした事業を行っています。そして、両市は、今年6月に相互協力・連携の覚書を交わしており、住民主体の相互復興推進プログラムの一環で研修を実施しています。

研修プログラムのうち研修員たちが最も積極的に学んだのが、両市の重要なコミュニティビジネスの一つである、漁業です。東松島市の漁師さんの協力のもと、鮭の定置網漁の実習を行いました。今回、実習を受け入れてくれた東松島市の漁師である大友さんは、地元で獲れる魚を多くの方々に知ってもらうことでコミュニティビジネスとして地域活性化に貢献している一人です。(※3)漁実習の3日目には、言葉は通じなくても研修員と地元漁師さんの間には、強い絆がうまれていたように感じました。

「自分たちの漁は、まだまだ改善すべき点がたくさんある。アチェで実践できることは挑戦したい。」そう語ったのは研修員であり漁師でもあるシャファートさん。今回の研修で学んだことを帰国後にどのように生かすかについて、とても意欲的に語ってくれました。

この他、東松島市職員と住民自治や市民協働について意見交換会を行い、また小野駅前応急仮設住宅に住む方々が東松島の復興を願って生まれたサルのみいぐるみ「おのくん」について学ぶなど、充実した研修となりました。

そして、今回の研修には、元JICA宮城デスクの伊東和希子さん(元青年海外協力隊インドネシア隊員)が通訳兼コーディネーターとして大きく貢献しました。

今回新たに来日した研修員6名は11月1日に帰国しましたが、先に来日していた研修員2名は12月7日まで研修を行う予定であり、東松島市とアチェ市の相互復興に今後も期待が高まります。

※1 地方自治体や地域のNGO、大学などが、これまでに培ってきた経験や技術を活かして、開発途上国への支援活動を、JICAと共同で実施する事業。

※2 東松島市での復興に関する中間支援組織として設置された法人。活動内容詳細は、HOPEホームページ(<http://hm-hope.org/>)より。

※3 食発見は、町おこし「東松島食べる通信」(<http://taberu.juno.weblife.me/>)



集合写真(東松島市の漁師さんとアチェ市研修員。未明から開始した鮭漁を終えて)



このコーナーでは、MIA宮城県国際化協会の最近の動きをお知らせいたします。
 いずれの件も、お問い合わせは ☎022-275-3796 E-mail mail@mia-miyagi.jp まで。お気軽にどうぞ。

鈴木英子さんが白川静漢字教育賞最優秀賞を受賞

当協会が主催するMIA日本語講座でスーパーバイザーを務めていただいている鈴木英子さんが、このたび「白川静漢字教育賞」の最優秀賞を受賞されました。この賞は、福井県出身で漢字研究の第一人者、故白川静氏にちなみ、新しい漢字教育に努めた教員などを対象に授与されるもので、福井県が昨年度から創設したものです。

鈴木先生には、現在もMIA日本語講座で「漢字2」のクラスをご担当いただいております。今年度からは鈴木先生が中心になって作成したオリジナルテキスト「使って覚える漢字1・2」を当協会にて出版し、学習者にご利用いただいております。鈴木先生は常に「非漢字圏出身者においては特に難しく、しかしながら日本で生活するには避けては通れないのが漢字です。その漢字の面白さ

に気づいてもらいながら、楽しく学んでもらうために試行錯誤を繰り返してきました。」と仰っていましたが、このような形で鈴木先生の成果、功績が認められたことは、私たちMIAにとってもたいへんうれしいことです。鈴木先生、ほんとうにおめでとうございます。



平成27年度MIA日本語講座講師募集のお知らせ

本協会が主催するMIA日本語講座では、平成27年(2015年)4月からの授業を担当する講師の募集を行います。

- 募集講師：MIA日本語講座初級1または初級2クラス(昼・夜)を担当する方、若干名
- 応募資格：日本語教育能力検定に合格している方または420時間の日本語教師養成講座を修了している方でクラス形式の教授経験のある方
- 委嘱期間：平成27年(2015年)4月1日から平成28年(2016年)3月31日まで
(委嘱期間は1年ですが、更新する場合があります)
- 選考方法：①申込時に指定の課題についての教案を作成し、提出、②提出の教案を基に模擬授業

- 申込締切：平成27年(2015年)1月14日(水) 必着
- お問い合わせ：委嘱条件や教案の課題等詳細についてはMIAまで



ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

『日本語を教えよう! 2015』イカロス出版発行

「外国人に日本語を教える」といっても、職業として教える、海外で教える、ボランティアで教えるなど活動の舞台はさまざま。この本は、それぞれどのようなルートを辿ればよいのか丁寧に解説されているほか、実際に活躍している人たちのインタビュー記事もあり、「日本語を教える」ことが実際にどういうことなのか、具体的にイメージすることができます。

巻末には参考書や勉強できる機関、各種団体のリストもあり、「これから日本語を教えてみたい」という人、「今はボランティアとして教えているけど、プロとして教えてみたい」という人など、経験がある人にもない人にも役に立つ、さまざまな情報が掲載された総合的なガイドブックです。



賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員 / 1口 3,000円
団体会員 / 1口 10,000円
- 賛助会員の特典
○ 協会機関紙「みやぎの国際情報誌(倶楽部MIA)」の定期送付(年6回)
○ MIA多言語かわら版(日・英・中・韓・葡)の定期送付(年6回)
- 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
(株)JTB東北仙台支店 宮交観光サービス(株)
- 企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
○ 本協会まで御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.76

編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会
 〒981-0914
 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
 宮城県仙台合同庁舎7階
 TEL 022(275)3796
 FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL http://mia-miyagi.jp/

